

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2007-239129
(P2007-239129A)

(43) 公開日 平成19年9月20日(2007.9.20)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 4 1 D 13/12 (2006.01)	A 4 1 D 13/12	3 B 0 1 1
A 4 1 B 11/00 (2006.01)	A 4 1 B 11/00 J	3 B 0 1 8
A 4 1 B 11/12 (2006.01)	A 4 1 B 11/12 B	

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2006-61324 (P2006-61324)	(71) 出願人	505131245
(22) 出願日	平成18年3月7日 (2006.3.7)		長屋 宏和
			東京都渋谷区笹塚1丁目4番9号
		(74) 代理人	100079108
			弁理士 稲葉 良幸
		(74) 代理人	100093861
			弁理士 大賀 真司
		(74) 代理人	100109346
			弁理士 大賀 敏史
		(72) 発明者	長屋 恵美子
			東京都渋谷区笹塚1-4-9
		(72) 発明者	長屋 宏和
			東京都渋谷区笹塚1-4-9
		Fターム(参考)	3B011 AA05 AA14 AB08 AC17 AC22
			3B018 AA03 AB03 AC01 AD21 FA01

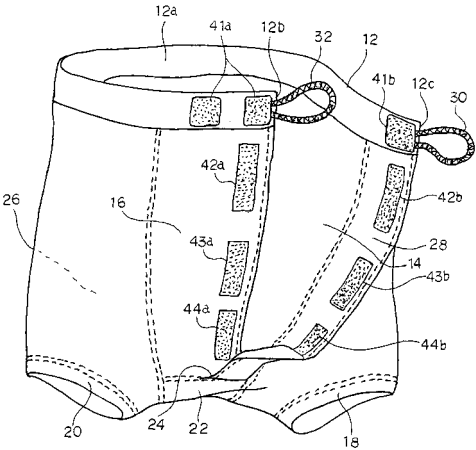
(54) 【発明の名称】 衣類

(57) 【要約】

【課題】 本発明は高齢者や身体不自由な方の着替えを容易にした衣類を提供することを目的とする。

【解決手段】 本発明の衣類は、身体の一部を挿入して着用する衣類において、当該衣類に形成された身体の挿入口の縁に衣類の着脱を補助する環状のひも（30、32）が設けられている。かかる構成とすることによって、ひもに指をかけて衣類を着用することが可能となる。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

身体の一部を挿入して着用する衣類であって、
当該衣類に形成された身体の挿入口の縁に衣類の着脱を補助する環状のひもが設けられた衣類。

【請求項 2】

前記衣類は身体の下半身に着用されるものであり、
前記身体 of 挿入口は該衣類の腰回り部であり、
該腰回り部は帯状部材の両端を該衣類の前方でオーバーラップして腹部を開閉可能とするように形成されてなり、
前記環状のひもが該帯状部材の両端部にそれぞれ設けられている、請求項 1 に記載の衣類。

10

【請求項 3】

前記衣類は身体 of 腰部から股下部に着用されるものであり、
前記身体 of 挿入口は該衣類の腰回り部であり、
該腰回り部は帯状部材の両端を該衣類の前方でオーバーラップして腹部を開閉可能とするように形成されてなり、
前記環状のひもが該帯状部材の両端部にそれぞれ設けられ、
更に、前記帯状部材の一方端側と該股下部との間に設けられて身体 of 腹部を覆う左腹部部材と、
前記帯状部材の他方端側と該股下部との間に設けられる身体 of 腹部を覆う右腹部部材と、

20

前記帯状部材のオーバーラップに伴って該左腹部部材と該右腹部部材とがオーバーラップする領域に配置される面ファスナーと、を備える請求項 1 に記載の衣類。

【請求項 4】

前記衣類は、前記腰回り部から前記股下部にかけて前記左腹部部材又は右腹部部材を開放する前開きの下着である、請求項 2 又は 3 に記載の衣類。

【請求項 5】

前記衣類が身体 of 足部に着用されるものであり、
前記身体 of 挿入口は該衣類の足首回りであり、
該衣類の足首回りには伸縮可能な口ゴム部が設けられ、
前記環状のひもは該口ゴムに取り付けられる、請求項 1 に記載の衣類。

30

【請求項 6】

前記環状のひもが該口ゴムに踵側に設けられる、請求項 5 に記載の衣類。

【請求項 7】

前記衣類が足部のつま先から踵にかけて着用されるものである、請求項 5 又は 6 に記載の衣類。

【請求項 8】

環状のひもが断面略円形である、請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載の衣類。

40

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は衣類の着やすさの改良に関し、特に、高齢者、幼児、妊婦、患者、身体障害者等の力不足や身体の不自由な人（以下、「不自由者」という。）が身につけやすいように改良した衣類に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、下半身などを自由に動かすことのできない不自由者は、下着や靴下などの衣類を着替えるときには介護者の手を借りるのが一般的である。

50

不自由者向けの下着として、例えば、パンツの前側をその中央部から左右に切り開いて前あきを大きくして、おしめの取り替えやカテーテルの取り扱いを容易にした介護用パンツが提案されている（特許文献１）。

また、パンツの股下部に大きく孔を開けて人の排泄器を露出し、該露出孔を帯状の布で開閉可能に覆って、該パンツを脱がずに排泄することができようにしたパンツも提案されている（特許文献２）。

【０００３】

また、不自由者が介護者の手を借りることなく下半身用下着や靴下を身につけることを可能とする補助器具も提案されている（特許文献３、４）。

【特許文献３】特開２００１－１７２８０８号公報

【特許文献４】特開２００４－２１１２７２号公報

【特許文献５】特開２００３－２１９９５４号公報

【特許文献６】特開２０００－２７０９９６号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

しかしながら、不自由者には、下半身のみならず、指が自由に動かなかったり、手指の握力が極めて弱い者もいる。握力が弱い者には補助器具類の使用は難しい。上述した下着ではその着替えになおも介護者の助力が必要である。

【０００５】

また、下着などの着替えは体を露出するために不自由者自身が行いたいものである。また、不自由者自身が下着の等の着替えを行うことができれば介護者の負担も減少して好ましい。

【０００６】

よって、本発明は、不自由者の衣類の着替えや装着を容易にした衣類を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

上記目的を達成するため本発明の衣類は、身体の一部を挿入して着用する衣類において、当該衣類に形成された身体の挿入口の縁に衣類の着脱を補助する環状のひもが設けられている。

【０００８】

かかる構成とすることによって、不自由者がひもに指や手首をかけて衣類を容易に着脱（着衣あるいは脱衣）することが可能となる。衣類は身体に着ける布地などであって、上着、下着、肌着、靴下、手袋、サポーター等が含まれる。

【０００９】

好ましくは、上記衣類は身体の下半身に着用されるものであり、上記身体の挿入口は該衣類の腰回り部であり、該腰回り部は帯状部材の両端を該衣類の前方でオーバーラップして腹部を開閉可能とするように形成されてなり、上記環状のひもが該帯状部材の両端部にそれぞれ設けられている。帯状部材としては、弾力性のある繊維などを織込んだ布地、テープ状のゴムひも、布地を折り返したものの、単なる布地の一部であって腰回り部に該当するものなどが該当する。帯状部材は必ずしも他の部分と明確に区別可能な別体として構成されていることを要しない。

【００１０】

かかる構成とすることによって、パンツ、ズボン、スカート、トレーニングパンツ、パンティストッキング、ガードル、ペチコート等の衣類の着脱が容易になる。

【００１１】

好ましくは、上記衣類は身体の腰部から股下部に着用されるものであり、上記身体の挿入口は該衣類の腰回り部であり、該腰回り部は帯状部材の両端を該衣類の前方でオーバーラップして腹部を開閉可能とするように形成されてなり、上記環状のひもが該帯状部材の

10

20

30

40

50

両端部にそれぞれ設けられ、更に、上記帯状部材の一方端側と該股下部との間に設けられて身体の腹部を覆う左腹部部材と、上記帯状部材の他方端側と該股下部との間に設けられる身体の腹部を覆う右腹部部材と、上記帯状部材のオーバーラップに伴って該左腹部部材と該右腹部部材とがオーバーラップする領域に配置される面ファスナーと、を備える。

【0012】

かかる構成とすることによって、不自由者がひもに指や手首をかけて衣類の腹部を大きく開くことができ、衣類の着替え（着脱）が容易である。

【0013】

好ましくは、上記衣類は、上記腰回り部から上記股下部にかけて上記左腹部部材又は右腹部部材を開放する前開きの下着である。これによって、下着を下腹部まで開くことができ、介護に便利である。

10

【0014】

好ましくは、上記衣類が身体の足部に着用されるものであり、上記身体の挿入口は該衣類の足首回りであり、該衣類の足首回りには伸縮可能な口ゴム部が設けられ、上記環状のひもは該口ゴムに取り付けられる。これにより、靴下やサポーターの着脱が容易になる。

【0015】

好ましくは、上記環状のひもが該口ゴムの踵側に設けられる。これによって、靴下やサポーターの着脱が容易になると共に、足の甲回りに当該衣類を回すことができ、つま先、踵などの位置に衣類をフィットさせることができる。

【0016】

20

好ましくは、上記衣類が足部のつま先から踵にかけて着用されるものである。これによって、当該衣類を足の甲回りに回すことができ、つま先、踵などの位置に衣類をフィットさせ易くなる。

【0017】

好ましくは、上記環状のひもは断面が略円形である。断面長方形のもの（テープ状のひも）よりも指や手首が輪の中に通りやすく、強度も相対的に高い。

【発明の効果】

【0018】

本発明の環状のひもを有する衣類によれば、ひもの輪に指や手首をかけて衣類を着脱することができるので身体の不自由な方の衣類の着脱が容易化される。

30

【発明を実施するための最良の形態】

【0019】

以下、本発明の実施の形態を添付図面を参照して説明する。本発明の衣類は不自由者が自分で衣類を装着出来るように、不自由者が衣類を引き上げあるいは引き下げ易い部分にループをなすひもを1つ又は複数設けている。第1の実施例では衣類であるパンツの前側をひもで開いたり、閉じたりすることができる。第2の実施例では、衣類である靴下をひもで移動して挿脱することができる。

【実施例1】

【0020】

図1及び図2は、本発明の第1の実施例の衣類を示す説明図であり、図1は当該衣類の正面図、図2は当該衣類の斜視図である。両図において対応する部分には同一符号を付している。

40

【0021】

図1に示す衣類はパンツ（下着）の例を示している。パンツは身体の下半身に着用され、身体の下半身の腰部、腹部、臀部、股下部の形状に対応した形状をしている。同図に示すように、実施例のパンツ10は、例えば、吸湿性及び通気性の良い綿やポリエステル繊維（あるいはこれ等の混紡）の布地を縫製して構成され、パンツ10の前側の略中央部が股下近くまで左右に大きく開く構造となっている（図2参照）。後述するように、パンツ10の前開き部28に面ファスナーを使用することによってパンツの開閉は格別の力を要することなく簡単に行える。

50

【0022】

パンツ10は、概略、腰回り部12、左腹部部材14、右腹部部材16、左裾部18、右裾部20、股下部22、あき止まり24、臀部26、前開き部28、ひも部30、32（図2参照）等の各部分によって構成されている。なお、図中の点線は縫い目を表している。

【0023】

腰回り部12は、例えば、ゴム繊維等を織り込んで伸縮性あるいは弾力性を大きくした带状部材12aによって構成されて、身体の腰部を一周し得る長さで適当な上下方向の幅とを有している。带状部材12aの一端部12b及び他端部12dは、パンツ10の前側の略中央部でオーバーラップしている。带状部材12aの一端部12bの表側には左右方向に長手の面ファスナー41a及び断面略円形のひも32が縫合などによって取り付けられている。同様に、带状部材12aの他端部12cの裏側には左右方向に長手の面ファスナー41a及び断面略円形のひも30が縫合などによって取り付けられている。各ひもは柔軟で機械的強度の高い繊維、例えば、ナイロンなどのロープに用いられるような繊維で構成される。また、各ひもはゴムひものような弾力性のあるものであってもよい。

10

【0024】

なお、パンツ10の布地の腰回り部を折り返して袋状とし、これにゴムひもを通して縫い合わせ、带状部材（部分）12aを構成しても良い。また、パンツ10の布地の腰回り部にテープ状のゴムひもを縫合して带状部材（部分）12aを構成しても良い。带状部材12aの伸縮性はパンツ10のずれ落ちを防ぐために望ましいが、面テープ41a及び41bで身体の腰部を締めることによってずれ落ちを防ぐことが可能であり、当該伸縮性は必須のものではない。

20

【0025】

左腹部部材14は、腰回り部12と身体の左足大腿部が位置する左裾部18及び身体の股下が位置する股下部22との間の布地が該当し、身体の腹部中央から左腹部を覆っている。

【0026】

右腹部部材16は、腰回り部12と身体の右足大腿部が位置する右裾部20及び身体の股下が位置する股下部22との間の布地が該当し、身体の腹部中央から右腹部を覆っている。

30

【0027】

左腹部部材14の一部と右腹部部材16の一部とは、パンツ10の前中央部でオーバーラップしている。左腹部部材14の当該オーバーラップ部分が前開き部28となっている。

【0028】

臀部部材26はパンツ10の後側の腰回り部12と左裾部18、右裾部20及び股下部22との間の布地が該当する。なお、パンツ10を構成する各部材は1つ又はそれ以上の布片を縫合して構成することができ、また、1つの布片で複数の部材を構成することができる。

【0029】

前述したように、パンツ10はその前中央部の前開き部28で左右に開放可能である。開放可能とするために、図2に示すように、当該部分の左腹部部材14の裏面側には腰回り部の端部12cからあき止まり部24にかけて複数個の面ファスナー41b～46bが取り付けられている。これ等に対応して、右腹部部材16の表面側にも腰回り部12からあき止まり部24にかけて複数個の面ファスナー41a～46aが取り付けられている。あき止まり部24は股下近くに設けられている。

40

【0030】

従って、ひも30及び32に指や手首を通して左右に広げることによって各面ファスナーの係止が外れてパンツ10の前中央部を股下部22の近傍まで大きく開くことができる。このような状態であればパンツ10を足首まで下げて（あるいは落として）パンツを容

50

易に脱ぐことができる。また、パンツ 10 を左右に大きく開いた状態ではパンツの腰回り部 12 内に足を中に入れることが容易になる。ひも 30 及び 32 に指や手首を通して引き上げればパンツ 10 を下半身まで引き上げることができる。更に、ひも 30 及び 32 をパンツ 10 の前中央部で交差させることによって各面ファスナーの係止が行われてパンツ 10 の前中央部を閉じる、パンツ 10 を装着（着用）することができる。

【0031】

上述した実施例の衣類によれば、身体の挿入口（腰回り）の近傍に指係止用のひもを配置したので、身体の不自由な者であってもこのひもを利用して衣類の着衣及び脱衣を容易に行うことができる。また、衣類の前側を大きくかつサイズフリーで開閉することができるので、カテーテルや排泄具等の医療用具、尿袋などを装着し易い。

10

【実施例 2】

【0032】

図 3 及び図 4 は、本発明の第 2 の実施例を示している。この例では、衣類が身体の一部である足が挿入される靴下である場合を示している。図 3 は正面図、図 4 は斜視図である。両図において対応する部分には同一符号を付している。

【0033】

図 3 に示すように、靴下 70 は綿や合成繊維の伸縮性のある織地でフート部 72、つま先部 74、踵部、身体の一部である足先を挿入する口ゴム部（挿入口）78、ひも部 34 等が形成される。ひも 34 は上述したひも 30 及び 32 と同じものを使用することができる。ひも 34 は、好ましくは、口ゴム部 78 の縁の踵部 76 側寄りに取り付けられる。それにより、靴下全体（踵 76 側まで）をひも部 34 で引くことができる。

20

【0034】

この衣類である靴下を履く（着衣する）場合、不自由者はひも 34 に指あるいは手首をかけ、足のつま先を口ゴム部 78 内に入れた状態でひも 34 を引き上げる。それによって、靴下 70 が足のつま先、甲（及び足裏）、踵にそってこれ等の部分を覆うように移動するので、靴下を容易に履くことができる。また、靴下 70 を脱ぐ場合には、不自由者はひも 34 に指あるいは手首をかけて踵方向、つま先方向にひも 34 を引くことによって靴下 70 を容易に脱ぐことができる。

【0035】

なお、靴下 70 は、実施例のように、レッグ部 80 を設けないようにすると着脱がより容易になる。レッグ部 80 を設けないようにすると、足の甲（フート）を軸として靴下を回転することができ、足のつま先及び踵を靴下のつま先部 74 及び踵部 76 に簡単に合わせることで具合がよい。

30

【0036】

なお、本発明の衣類は、上記した実施の形態に限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲内において種々変更を加え得ることは勿論である。例えば、上述したパンツの構造は、股引、ズボン、ジャージ等の下半身に着用する各種の衣服に適用出来る。また、上述した靴下の構造は、手袋や、腕や足のサポーター等に適用出来る。

また、本発明の衣類は、不自由者のみならず健常者が着用しても具合がよく、障害のない老人、幼児、妊婦等にも好適である。したがって、本発明は不自由者の衣類（衣服・靴下など）に限定されるものではない。

40

【図面の簡単な説明】

【0037】

【図 1】図 1 は、本発明の第 1 の実施例を説明する説明図である。

【図 2】図 2 は、本発明の第 1 の実施例を説明する斜視図である。

【図 3】図 3 は、本発明の第 2 の実施例を説明する説明図である。

【図 4】図 4 は、本発明の第 2 の実施例を説明する斜視図である。

【符号の説明】

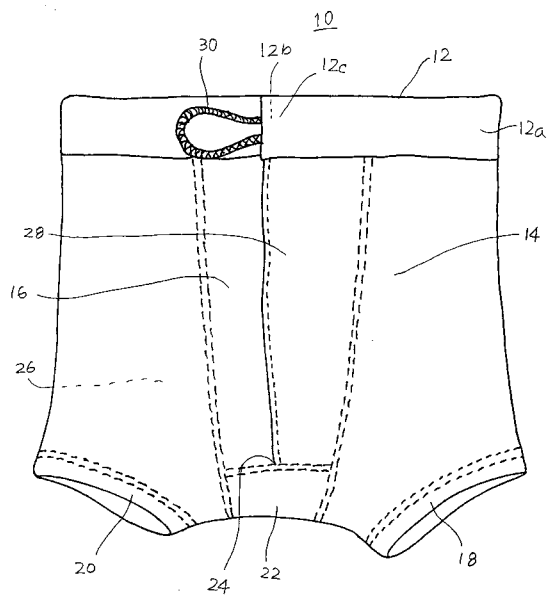
【0038】

10 パンツ、12 腰回り部、12a 带状部材、14 左腹部部材、16 右腹部部

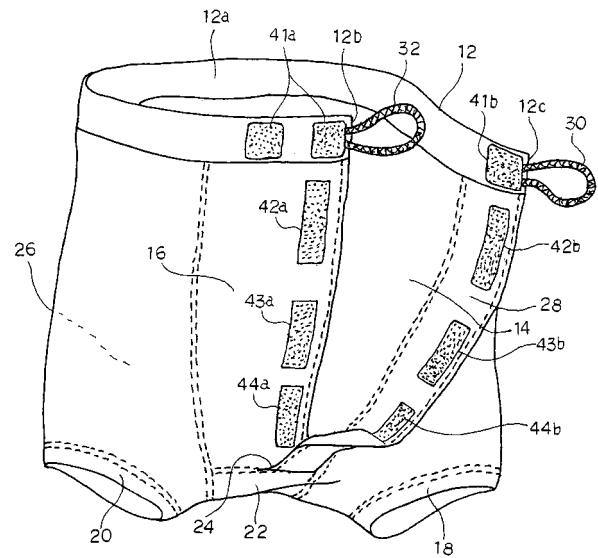
50

材、18 左裾部、20 右裾部、22 股下部、24 あき止まり、26 臀部、30
 , 32, 34 ひも、41-46 (41a-46a, 41b-46b) 面ファスナー、
 70 靴下、72 フート部、74 つま先部、76 踵部、78 ロゴム部、80 レ
 ッグ部

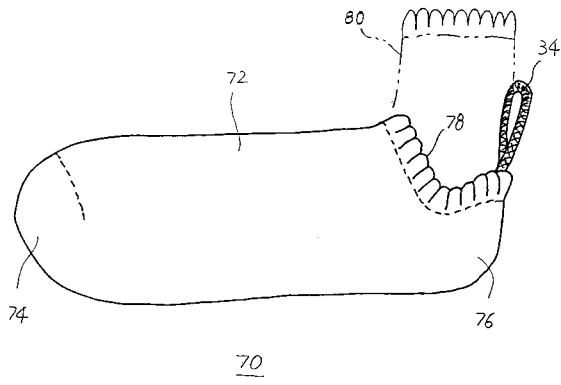
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

